

# 平成24年度主題研究

地域とのかかわりを通して、

確かな学びを育てる授業づくり

－「交流」を通して、地域への愛情や誇りに思う心を深める生活科・総合的な学習の時間の取組－

## 1. 主題設定の理由

### (1) 新学習指導要領の趣旨から

総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとする。このことから、思考力・判断力・表現力が求められる「知識基盤社会」の時代においては、総合的な学習の時間は益々重要な役割を果たす。また、「小学校学習指導要領 総合的な学習の時間」の改善の具体的事項の(ク)には、「互いに教え合い学び合う活動や地域の人の意見交換など、他者と協同して課題を解決しようとする学習活動を重視するとともに、(中略) 探究的な活動を重視する」とある。

そこで、学習素材とする故郷大蔵の「ひと・もの・こと」とかかわって、探究的な学習を繰り返すことは、主体的な学習意欲を高めるとともに学んだことのよさや価値を味わわせることができると考える。さらに、身近な人や社会・自然とのかかわりを充実させることが、児童の自立の基礎を養い自己の生き方への気付きにつながると考えた。

### (2) 本校の学校教育目標から

本校の教育目標は、「心身ともに健康で体・徳・知の調和のとれた自主的で実行力のある児童の育成」である。学習においては、児童が自らの力で、または他者と協力しながら、全力で問題解決に向けて取り組む姿を目指している。このような姿を具現化するためには、児童が心を揺さぶられ、「～せずにはいられない」と思わせるような「価値ある体験活動」を仕組むことが大切であると考えた。

本校校区には、大蔵川を中心とした豊かな自然環境と、古くからこの地に住む人々によって脈々と受け継がれてきた歴史と文化がある。総合的な学習の時間の学習は、このような地域の自然・歴史・文化等を教材化することで、「価値ある体験活動」を展開することができる。

そこで、地域を学びのフィールドとし、児童の思いや願いに沿った単元構成や体験を通じた学習活動を充実させることを通して、児童の「確かな学び」を育てていきたいと考えた。

### (3) 本校児童の実態から

昨年までの総合的な学習の時間での研究の取組から、以下のような児童の姿が明らかになっている。

- ・ 校外での体験活動や主体的な問題解決学習を重視し、児童の興味・関心・意欲を大切にしたい学習展開を図ったことで、児童は生活科や総合的な学習の時間の学習を「楽しい」と感じている。

- ・ 地域の自然や人とのかかわる体験を通して、大半の児童が大蔵のまちを好きと感じている。さらに、進んで地域にかかわっていかこうとする意欲や地域のひと・もの・ことに対する肯定的な見方や考え方が育ってきている。
- ・ 地域の方々の大蔵のまちに対する愛着の思いや共生の願いに触れ、共感したり尊敬やあこがれの気持ちをもったりする児童も見られた。また、大蔵のひと・もの・ことと自分の生活が密接にかかわっていることに気付いたり、地域の一員として自分ができることを考えたりする児童の姿を見ることができた。
- ・ 身近な事象に対して「なぜ」「おかしいな」といった疑問を抱き、その疑問を積極的に解決しようとする姿勢はまだ十分に見られない。
- ・ 興味・関心の個人差が大きく、自分の思いがもてなかつたり、言葉や絵で表現したりするのが苦手な児童が見られる。

特に、本校の児童は、総合的な学習の時間に対する関心や学習意欲が高く、これまでの学習経験から問題解決するための方法も身に付けてきている。しかし、学習したことを言語によって分析したりまとめたり表現したり意見を伝えたりすることに自信がもてない児童もいる。

そこで、身近な地域の人・もの・ことを学習素材として何度も繰り返しかかわり、課題追究の場を多く仕組むことによって、自ら問題解決する能力をさらに高めることができると考える。また、問題解決学習の中で伝え合い交流する活動を充実させることは、自分の考えをしっかりと話し合いに臨み、考えや意見を様々な方法で表出していく（伝えていく）ことにつながり、児童の思考力や言葉の力を向上させることになると考える。

## 2. 主題の意味

### (1) 「地域とのかかわりを通して」とは

地域の自然や事象、人物を中核にすえた教材を開発し、児童にとって価値ある学びを展開すること。

児童の生活経験の場である「地域」は、様々な自然や事象があり、人々の営みがある。そこには、教科・領域の本質に迫る多くの素材が存在する。それらを効果的に教材化し、地域を学びの場とすれば、児童の具体的な学習活動や体験が展開できる。そこでは、児童自らが地域に働きかけ、思考力や判断力、表現力を駆使しながら、問題解決を図っていく。そして、その過程の中で、自己への気付きや生活に生かす力を深めていくことができると考える。

### (2) 「確かな学び」とは

自ら進んで地域に働きかけ、問題解決の過程で、思考力や判断力、表現力を駆使しながら、自己への気付きや生活に生かす力を深めること。

児童の『生きる力』を育むためには、基礎的・基本的な知識、技能の確実な習得に加え、「これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力などの育成」が必要である。児童の「確かな学び」は、身に付けた知識や技能を活用し、生かし、応用させることによって高められ、言葉や行動によって表出されなければならない。そのためには、問題解決の過程で、思考力や判断力、表現力を駆使しながら探究的な活動を充実させることが重要であり、そのことが確かな学びの結果としての「自己への気付きや生活に生かす力」を深めることにつながると考える。

### 3. 第2年次(平成24年度)の研究

#### (1) 研究の目標

地域のひと・もの・こと・自然に深くかかわる探究的・協同的な学習の中で、大蔵の魅力やよさに対する多様な見方や考え方を交流させることにより、これまで育んできた子どもたちの地域に対する愛情と誇りを一層深める。

#### (2) 研究の仮説

地域のひと・もの・こと・自然に深くかかわらせながら、以下の3つの手立てを工夫すれば、子どもたちは大蔵の魅力やよさに対する多様な見方や考え方を主体的に交流し、地域に対する愛情と誇りを一層深めていくであろう。

〔手立て1〕 大蔵の地域の多様な魅力やよさを味わわせるために、単元構成の工夫をし、体験活動を焦点化する。

〔手立て2〕 大蔵の魅力やよさに対する多様な見方や考え方を交流するために、コミュニケーション活動を重視した、探究的・協同的な学習活動を仕組む。

〔手立て3〕 自己の高まりや成長を実感し、学び続けようとする子どもを育てるために、教師が適切な支援を行い、指導と評価の一体化をさらに図っていく。

#### (3) 仮説実証のための具体的な手立て

##### 【生活科】

##### 〔手立て1〕

大蔵の地域の多様な魅力やよさを味わわせるために、単元構成の工夫をし、体験活動を焦点化する。

- 2年間の育ちの広がりを見通すことのできる年間指導計画を作成する。
- 対象と多様にかかわる体験を重視し、様々な感覚で感じ取ることができる活動を単元に位置付ける。
- 体験を関連付ける教師の支援を工夫する。

##### 〔手立て2〕

大蔵の魅力やよさに対する多様な見方や考え方を交流するために、コミュニケーション活動を通して、学び合う活動を重視する。

- 気付きの質を高める学習活動の場を重視する。
- 学年・ねらいにあった話し合いの仕方、相手を明確にした発表の仕方や場の設定など、交流の場を工夫する。
- 日々の各教科・領域での学習を生かした言語活動の組み入れを行う。
- モデル学習による話す力・聞く力の向上を図る。
- 日常の言語活動の充実を図る。

〔手立て3〕

自己の高まりや成長を実感し、学び続けようとする子どもを育てるために、適切な評価と、一人一人の学習状況に応じた支援を行う。

- 学年の段階に応じた目指す具体的な子どもの姿を明確化する。
- 多面的な視点での評価（いろいろな人から、いろいろな場面で、自己評価）を図る。
- 連続的、長期的な見取りを生かした支援とポートフォリオを使った評価の工夫をする。

【総合的な学習の時間】

〔手立て1〕

大蔵の地域の多様な魅力やよさを味わわせるために、単元構成の工夫をし、体験活動を焦点化する。

- 大蔵の魅力に新たな視点で迫ることのできる地域素材（学習材）の焦点化を図る。
- 子どもの思いや思考の流れに沿った単元づくりを行う。
- 課題設定の時間や体験の十分な保障をする。
- 教師自身の大蔵のさらなる探究と効果的な人材活用を図る。

〔手立て2〕

大蔵の魅力やよさに対する多様な見方や考え方を交流させるために、コミュニケーション活動を重視した探究的・協同的な学習活動を仕組む。

- 「整理・分析」「まとめ・表現」のプロセスでの協同的活動を重視する。
- お互いの考えを出し合い、高めていく学習場面を設定する。
- 日々の各教科・領域での学習を生かした言語活動の組み入れを行う。
- それぞれの場面でのコミュニケーション活動の仕方の具体化と標準化（学年段階に応じたコミュニケーション方法のモデル化）を図る。
- 日常の言語活動の充実を図る。

〔手立て3〕

自己の高まりや成長を実感し、学び続けようとする子どもを育てるために、適切な評価と、一人一人の学習状況に応じた支援を行う。

- 学年の段階に応じた目指す具体的な子どもの姿の明確化する。
- 子どもの思考の広がりやこだわり、深まりの見取りと子どもの学習状況に応じた適切な助言・支援を行う。
- 連続的、長期的な見取りを生かした支援とポートフォリオを使った評価の工夫を図る。

## 4. 研究の実際

### （1）今年度の研修計画

今年度は、研究主題を「地域とのかかわりを通して、確かな学びを育てる授業づくり」、サブテーマを「『交流』を通して、地域への愛情や誇りに思う心を深める生活科・総合的な学習の時間の取組」として、第2年次の研

究を進めてきた。今年度の研究においては、第1年次の課題を受け、「交流」をキーワードに今まで培ってきた地域への愛情や誇りをより一層深めることをねらいとしたものである。また、「学校大好きオンリーワン事業」授業公開（11月16日開催）において生活科、総合的な学習の時間それぞれの授業を提案し、本校の研究実践を発信するとともに、全市的な研修の場とした。そして、研究を組織的・計画的に推進することを通して、教職員一人一人の授業力の向上を図った。授業研究の前後には、必ず事前研修（指導案検討会）と事後研修（協議会）を行うこととした。さらに、年度末には、児童の学びの姿をもとに研究の成果と課題を明確にし、次年度の研究へとつないでいく。